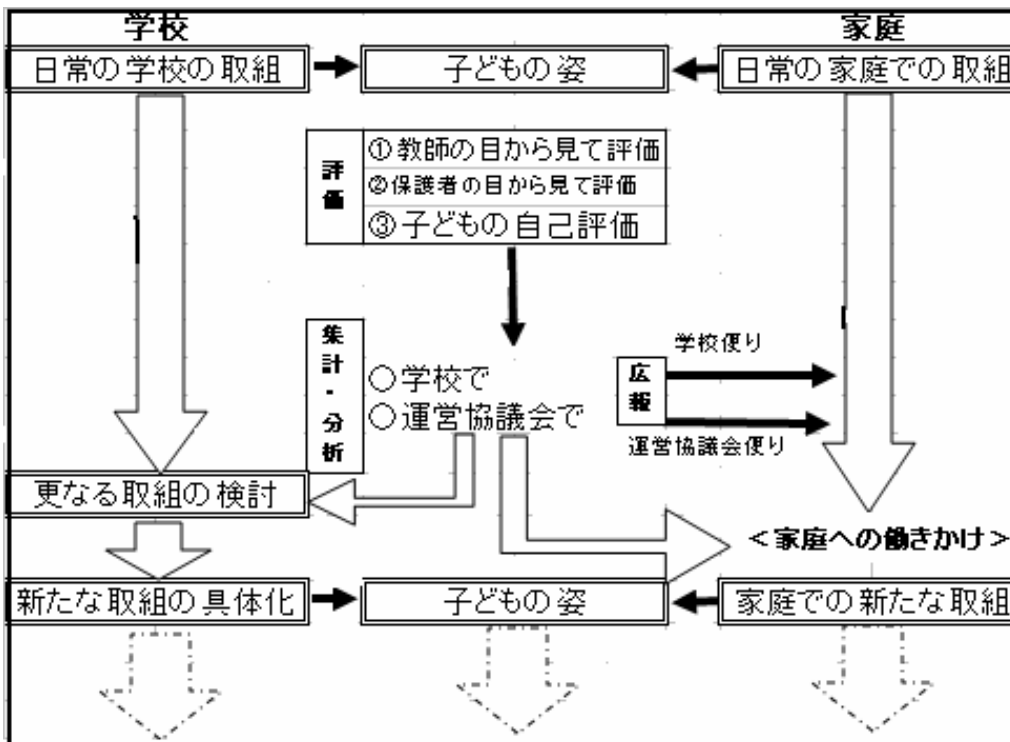


学校評価のねらいと年間計画

本校では、平成 17 年度より学校評議員の方による学校評価を実施してきた。平成 18 年 10 月に「学校運営協議会」が設置されてからは、「学びを拓く委員会」の「学校評価部会」を中心に、学校の取組を理解してもらい、評価してもらうことでよりよい学校づくりを目指している。学校評価をどのように生かすかについては次のように考えている。

図 1 に示したように子どもの日常は学校と家庭とに支えられ、影響を受けている。「目指す子ども像」に迫るために、子どもの姿を教師、保護者、子どもの三者から評価し、それを分析することで新たな取組を考えることができる評価の活用が大きな目的である。

具体的には評価を集計し、その結果を学校と運営協議会で分析する。そして子どものよりよい姿を求めるため更なる取組を共に考え、共同で行動にうつすことを目指している。



<図 1 学校評価の活用>

昨年度末の運営協議会総会において出された意見を基に、図 2 のような学校評価計画をたて実施していくことにした。

今年度の主な改良点は、児童自己評価、教師自己評価、保護者評価の質問項目を統一して、意識や捉え方の違いを見る。家庭教育の項目について保護者の自己評価を引き出す形を取り入れる。評価カードの回収率を上げるために回収日である日曜参観日前日に配布し、当日または翌日に提出してもらう方法にした。ことである。

本年度はこれまでに 6 月の自由参観日と、7 月の夏休み前にアンケートによる学校評価を実施した。以下に集計結果と分析を示す。

質問紙の項目は以下の通りである。(特記のない項目は児童、保護者、教師)

生活について	楽しく登校しているか	学習について	めあてに向かって学習しているか
	元気のよい挨拶ができるか		授業はよく理解しているか
	友達と仲よくできているか		授業中しっかり話を聞いているか
	困ったことがあれば先生に相談しているか		授業中進んで発表しているか
	学校やクラスのルールを守って生活しているか		勉強で分からないことは質問しているか
	学校であったことを家で話しているか		先生は分かるまで勉強を教えてくれるか
	日常的に読書に親しんでいるか(教師、保護者)		学習道具を忘れずに持ってきているか
	基本的な生活習慣が身についているか(教師、保護者)		家庭学習をやっているか
	礼儀正しく人に接しているか(保護者)		ていねいな学習をしているか(保護者)

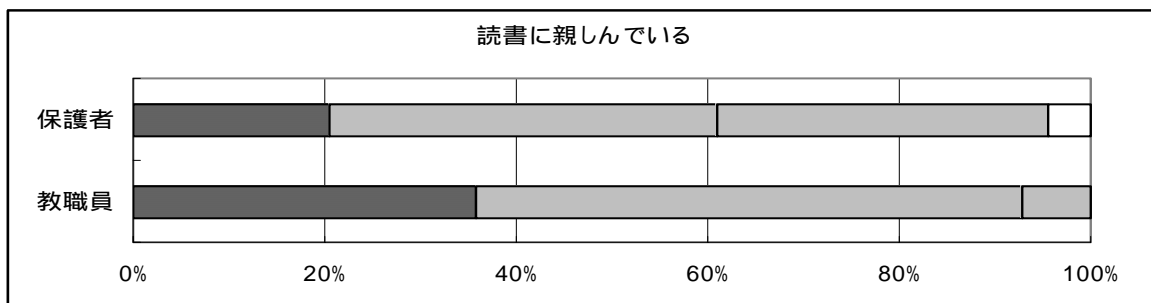
19年度学校評価計画

月	評価委員会	評価活動等
5	年間計画 概要確認 担当者決定	学校便りでは本年度の取組 広報 保護者に本年度の取組説明（懇談会・家庭訪問）
6	児童自己評価票・保護者評価票・ 教職員自己評価票 内容検討・決定	日曜自由参観：保護者評価（授業について）
7	夏休みの有意義な過ごし方に対する指導 保護者の学校教育への願い	児童自己評価（夏休み前） 保護者評価（個人懇談会） 教職員自己評価（夏休み前）
8	外部評価項目内用検討・決定 7月実施分評価内容検討・改善策検討	学力実態調査 総括（各担任・研究部）
9	（運営協議会評価委員会）	広報
10		運営協議会理事会 一日自由参観：保護者評価（授業について）
12	12月実施分評価内容検討・改善策検討	児童自己評価（冬休み前） 保護者評価（個人懇談会） 教職員自己評価（冬休み前）
2	1年間の評価を総括 次年度への課題をまとめる。	保護者評価（研究授業参観） 運営協議会・理事会・評価委員会
3		広報

< 図2 学校評価計画 >

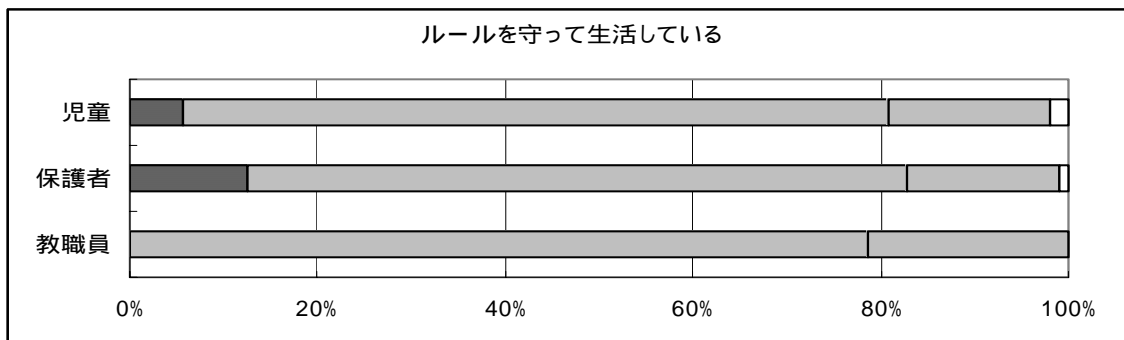
第一回 学校評価の結果と分析

資料



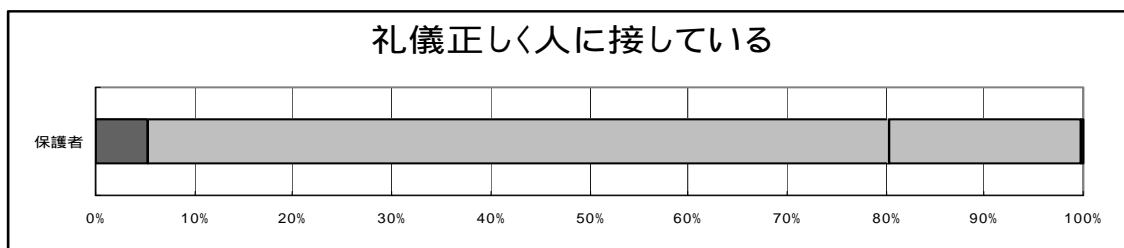
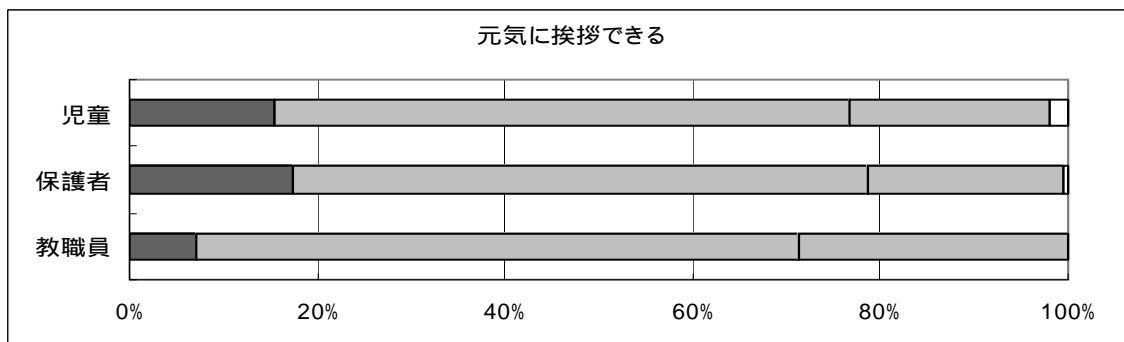
*家で読書している児童が少ない。学校ではかなり日常的に読書の習慣がついてきているので家でもその時間を確保して行ってほしい。また、読んでいる時間や本の内容などについても把握できるようにしていく必要がある。

資料



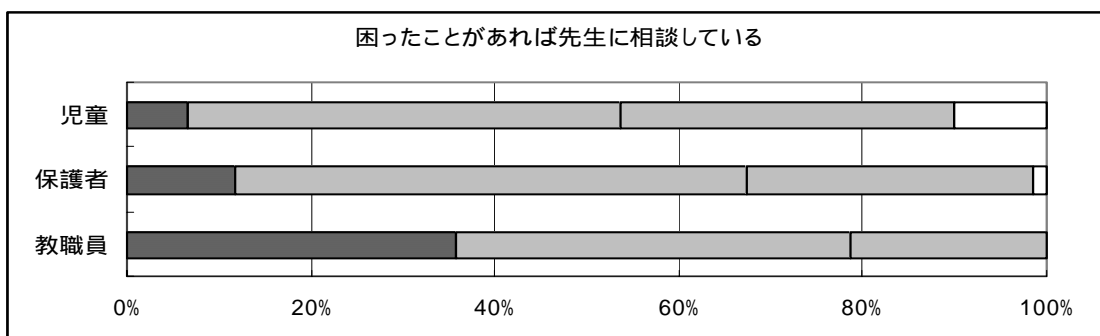
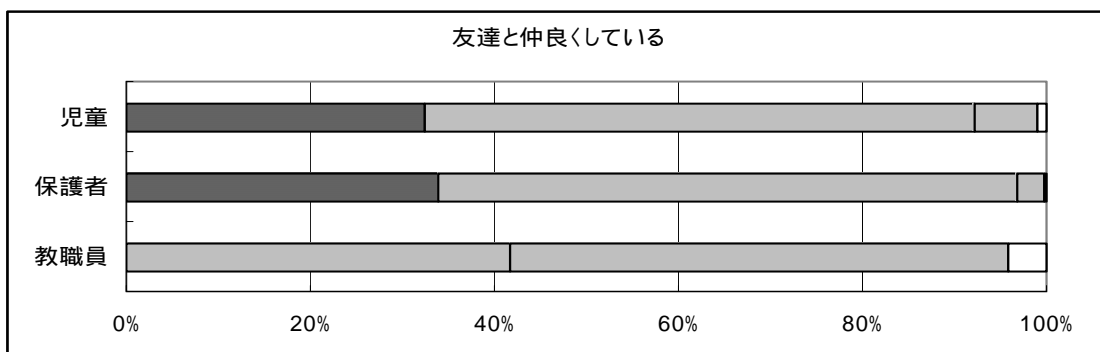
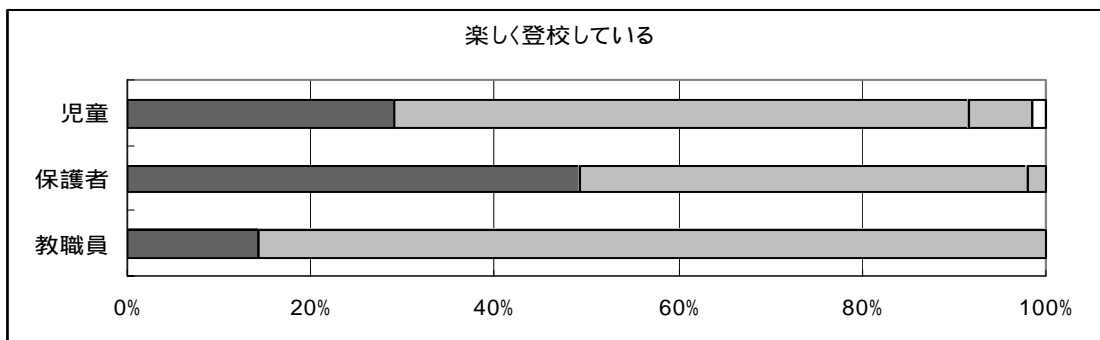
*ルールを守っているかという問いに対して、児童・保護者はおおむねできていると感じているが、教師はやや不十分さを感じている。「守れている」という評価基準を児童・保護者に示していかなければいけない。また「学校のきまり」についてなぜ守らないといけないのかという点を考えさせたり自分で生活を振り返ったりしてめあてをもって生活することが大切と思われる。そこで毎月「学校ふりかえりカード」としてきまりについて振り返ることにしたいと思う。(別紙)

資料



*挨拶・礼儀正しさについては家庭だけでも学校だけでも身につけていけない。人間関係を築く上で大変重要な要素であることを両者が共通理解し、大人が見本を示しながら指導していきたい。

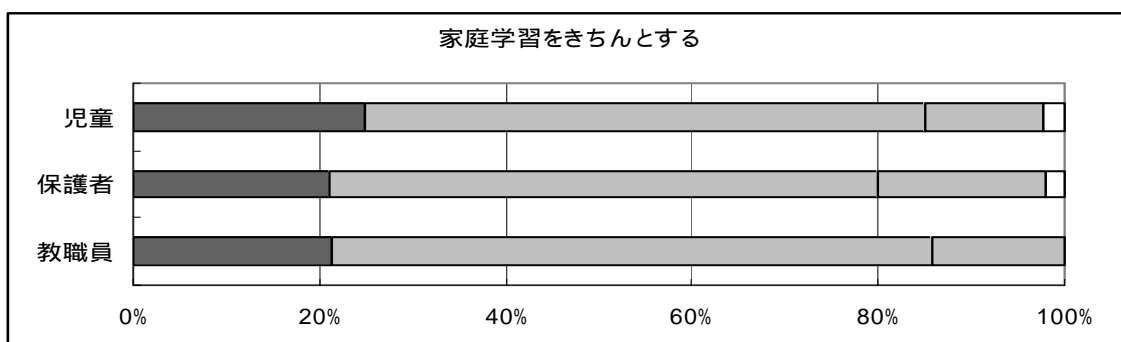
資料



* 児童・保護者は子どもが友達と仲良く毎日楽しく登校していると感じている。教師は友達と仲良くできているかについて児童・保護者よりも低い評価をしている。これは教師が「誰とでも仲良く」「仲のよいクラス作り」という願いからは課題があると考えているのに対し、児童・保護者は仲良しの友達と仲良くしていればいいのだという認識があると思われる。

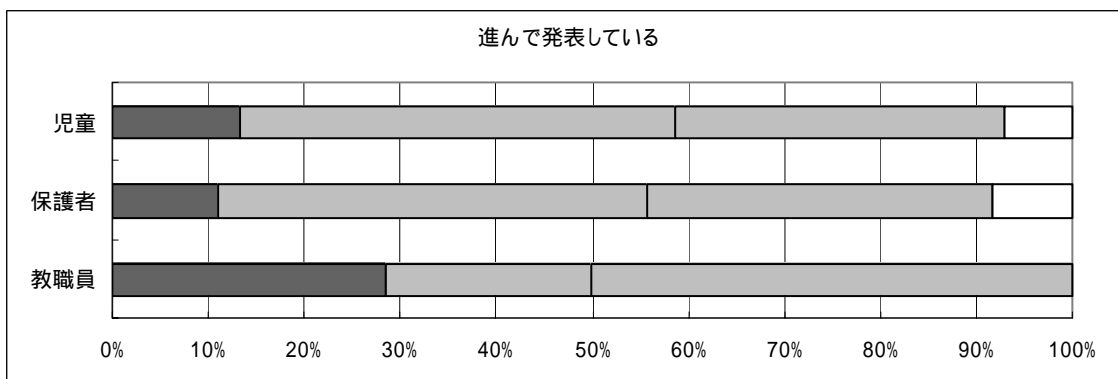
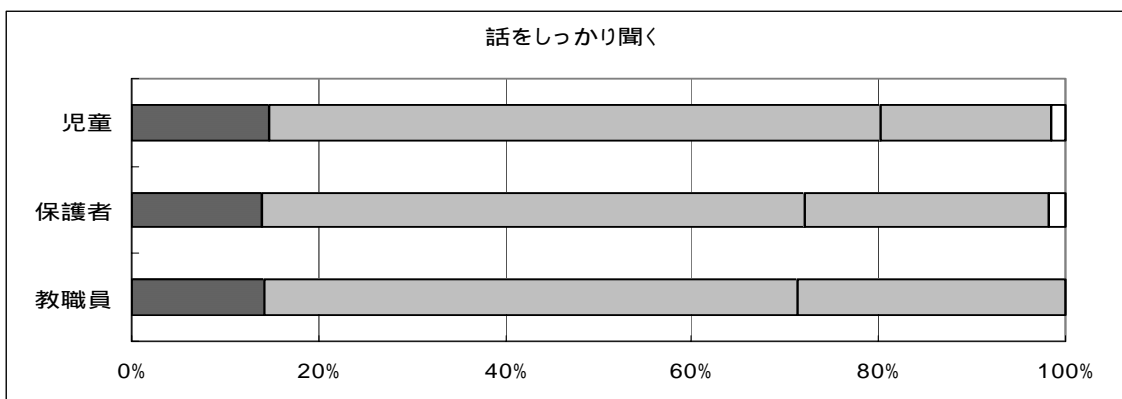
* 教師は子どもの相談にのっていると思っているが児童・保護者はまだ不十分であると思っている。子どもの様子を細かく観察し、相手から相談される前にこちらから話をしていくよう心がけたい。また、子ども達の困っている内容を把握するためにアンケートをとったり担任がどのような内容を把握しているのかをつき合わせていったりしたい。

資料



* 家庭学習の習慣は身につけてきているようである。全然できていない児童が若干いることは問題であるのでこの比率が減っていくように子ども・家庭に働きかけを続けていく。

資料



* 授業中の「話を聞く」「発表する」という項目で児童・保護者・教員とも評価が低い。特に話を聞くという点については年度当初より

* 話している人の目を見て聞く。

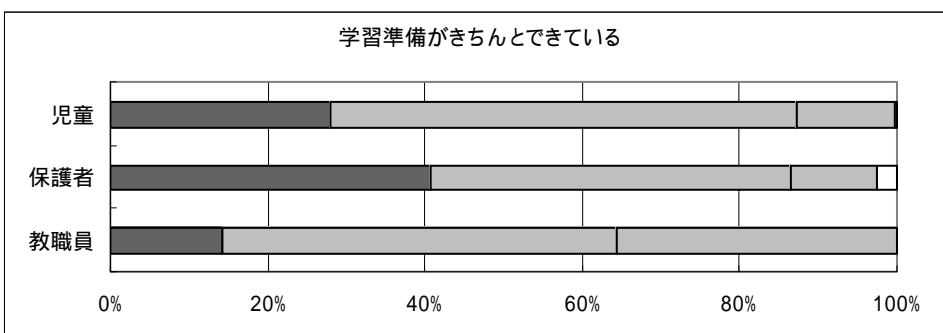
* 黙って聞く。

* うなずきながら聞く。

など各クラスで指導しているが、引き続き指導していきたい。家庭でも顔を見て会話をするなど「話をする、聞く」ことを大事にしてほしい。

進んで発表するという点についても「理由をつけて話す」「友達に付け加えて話す」「立場をはっきりさせて話す」など今後さらに力を入れて指導したい。

資料



* 学習準備に関しては保護者・児童に比べ、教職員の評価が低くなっている。教員の「できていない」の内容としては「下敷きを使う」「鉛筆をきちんと削ってくる」などの細かい点で不十分さを感じていたり、全員が宿題をやってきていないといったクラス全体のことを見ての判断だと思う。